

Leader



2026年3月期 決算補足説明資料 リーダー電子（6867）

2026年5月14日

<https://www.leader.co.jp/>

会社概要並びに事業概要



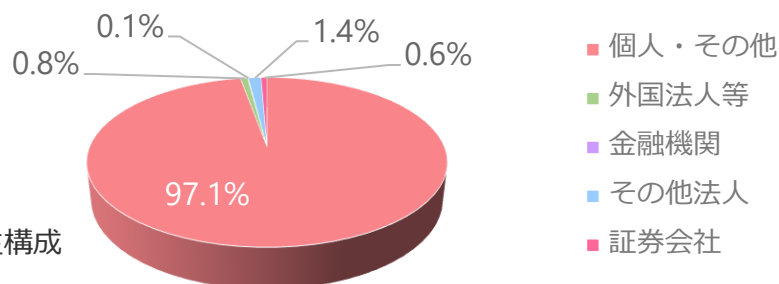
<https://www.leader.co.jp/>

商号：	リーダー電子株式会社 (スタンダード上場 6867) LEADER ELECTRONICS CORP.
設立：	1954年5月1日
事業内容：	電子計測器の研究開発・製造・販売
本社所在地：	神奈川県横浜市港北区綱島東2-6-33
資本金：	1,342百万円 (株主数 2,984名)
決算期：	3月31日
従業員数：	69名(単体)、127名(連結)
役員：	代表取締役社長 長尾 行造 他常勤取締役 3名、社外取締役 4名 (監査等委員会設置会社)
子会社：	海外販売子会社3社 (米国、中国、韓国) および Leader Electronics of Europe社(開発・製造・販売) (旧Phabrix社、2019年7月100%子会社化) 株式会社AI Picasso (画像生成AIアプリ・SaaSの開発運営、AI受託開発) (2025年7月100%子会社化)



代表取締役社長 長尾 行造

1997年4月 通商産業省 (現経済産業省) 入省
 2001年4月 ブーズ・アレン・アンド・ハミルトン
 (現プライスウォーターハウスクーパース・ストラテジー) 入社
 2002年1月 コーポレート・ディレクション入社
 2015年6月 当社取締役
 2017年6月 当社代表取締役社長 (現任)



企業理念

「計測を通じ、豊かな社会づくりに貢献する」

「創造と革新」

「知恵の結集と研鑽」



経営ビジョン

外部環境変化を先取りし、社会のイノベーションを積極的に促す

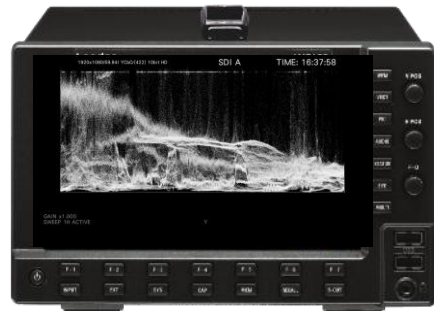
計測技術を基盤としつつも、モニタリング、ソリューションへと時代の要請に応じて計測の形態の進化にチャレンジする

社内外の垣根を越えて知恵を結集し、スピーディな創造と革新を推進する

地域や属性の違いを建設的に受容し、「日本」の枠に束縛されない企業行動を実践する

取引先、従業員、株主の共栄を追求する

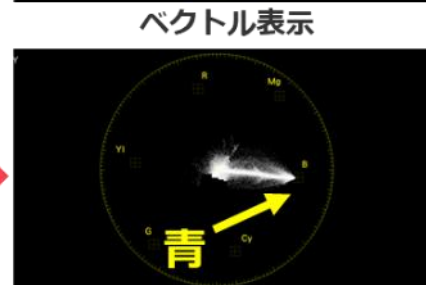
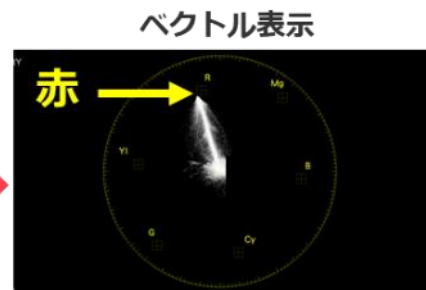
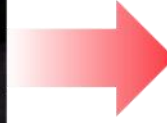
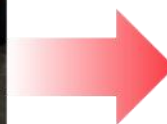
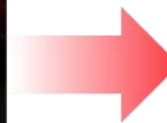
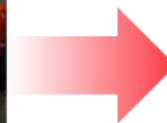
主力製品：波形モニター



弊社の波形モニターは
ビデオ信号のレベルや
色の測定がおこなえます



放送機材のビデオ信号



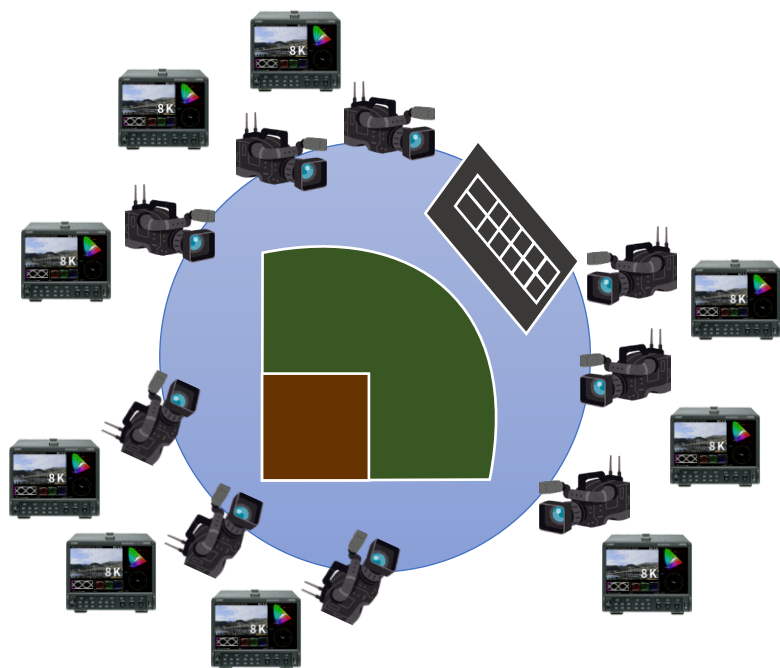
波形モニターの役割

複数のカメラ間でおこる色味の違いを調整するための装置

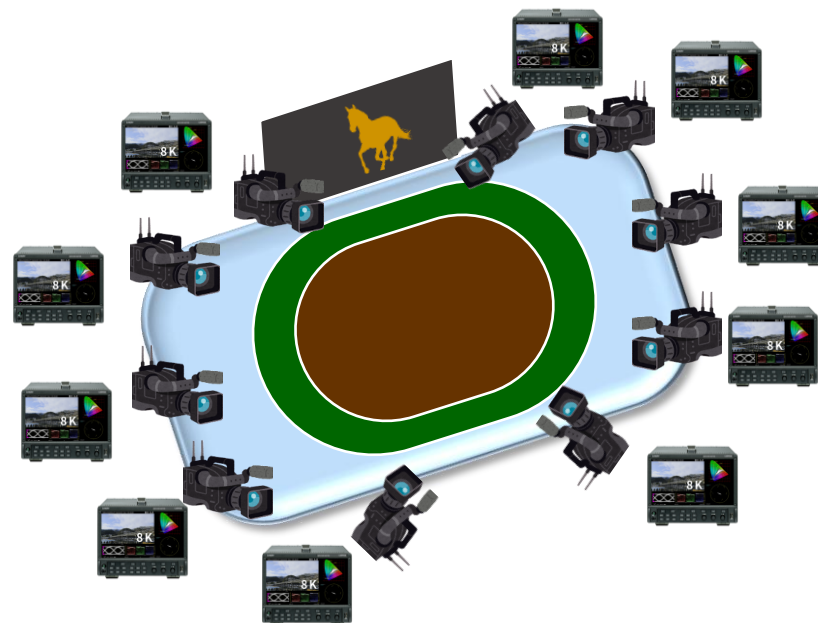


施設に設置されたカメラで映像コンテンツを制作

□ 野球スタジアム（海外）



□ 競馬場（日本）



WBCの中継でも活躍！

全世界をカバー

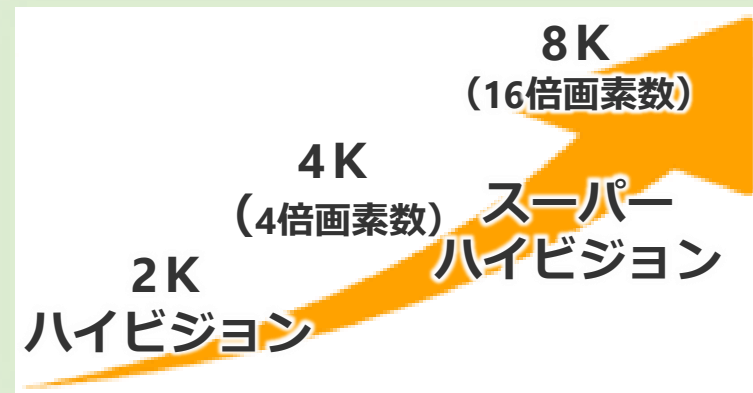
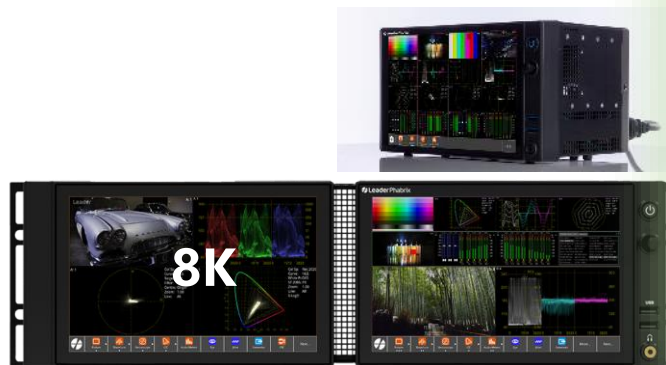
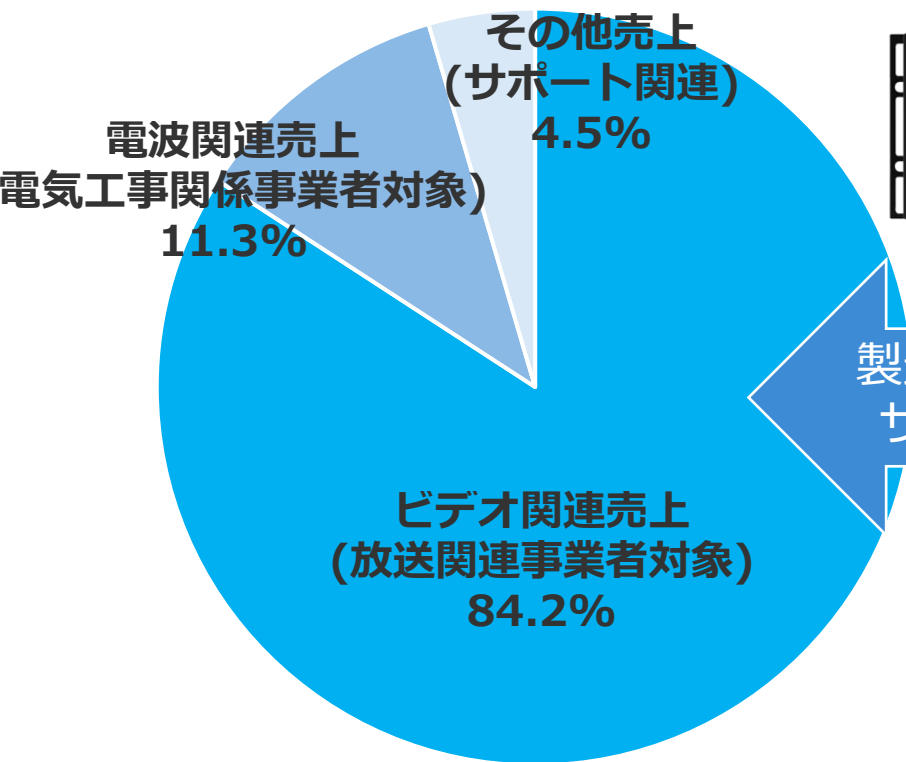


Leader

波形モニター：世界シェア2位！

創業以来の「計測のプロフェッショナル」として、幅広い産業を支援。

2026/3期 売上高42億円



製造・販売
サポート

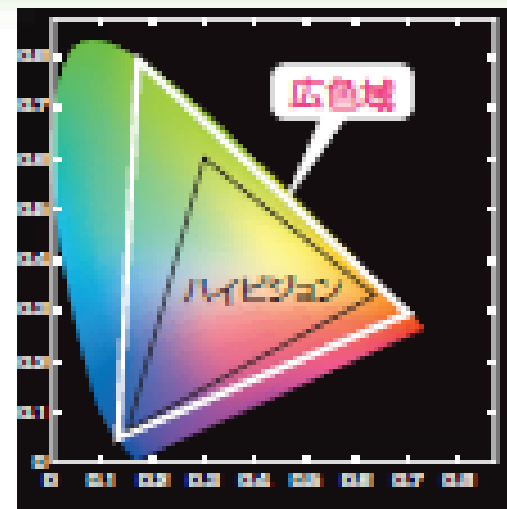
波形モニター



ラスタライザー



シグナルレベルメーター

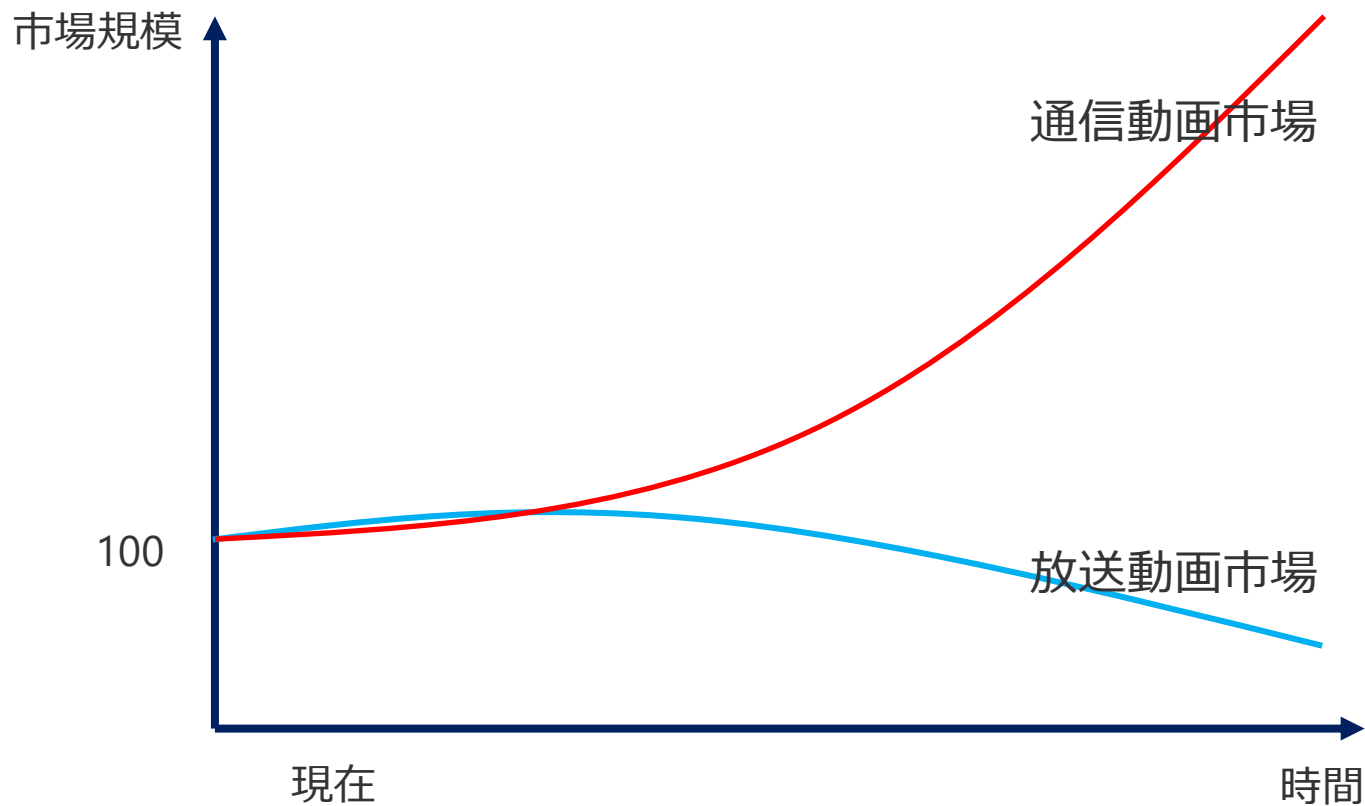


Leader

中期的成長の基本方針

ただし放送市場向けH/W事業だけでは成長に限界。

通信事業向けソリューション事業の開発を同時に進め、中期的な持続的成長を目指す



新規事業で大きな成長に挑戦



グロースビジネス・カンパニー
(GBC)



既存事業で収益を確保



バリュービジネス・カンパニー
(VBC)

両カンパニー概要

■ VTMユニット

➤ 映像・放送関連



■ イメージングデバイスユニット

➤ 画像・産業・車載関連



バリュービジネス グロースビジネス
カンパニー (VBC) カンパニー (GBC)

■ ワイヤレスユニット

➤ 電波関連



■ VMA(Video Management Automation)

➤ 新規事業・コア技術確立

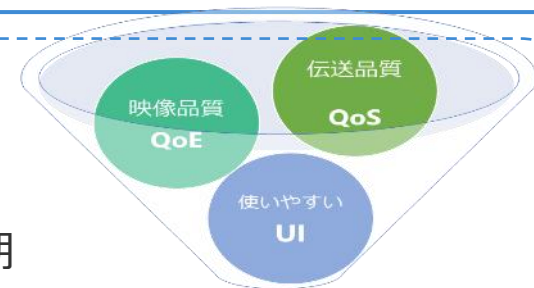


VMA(Video Management Automation)とは

従来の技術



- カメラ調整に最適な測定
- 輝度・色測定技術
- 最新技術「PTP」による時刻同期
- 絵音のズレを解決！リップシンク測定



今後の技術



- 自動色調整システム
- 生成AI技術
- CG合成技術
- IPネットワーク技術

※特許出願済

放送ノウハウ

+

付加価値



映像コンテンツ制作の

自動化・省力化ソリューション

AI Picassoの子会社化

- VMA事業 のソリューション開発に、進化の著しい生成AI技術を活用すべく、2024年度よりAI Picasso社への業務委託を開始
- 業務委託を通じ、VMA事業における生成AI技術の可能性・実効性を認識するとともに、事業の一層の加速化を図るべく、2025年7月に子会社化

2026年3月期 決算概要



<https://www.leader.co.jp/>

2026年3月期 決算総括

業績：北米がビデオ関連をけん引。日本国内における4Qの駆け込み需要も取り込み、わずかながら増収。北米は丁寧な日本式営業手法によりシェアは確実に拡大。欧州においても同様の営業手法を展開する体制を構築。為替差益88百万円を計上。

■売上高：4,247百万円（前期比+3.2%）、経常利益118百万円（前年同期は△223百万円）

北米	丁寧な営業の評価が高まり周辺サービス展開企業との連携も進み、当社シェアが拡大中。
欧州	北米で展開した営業方法を欧州でも展開。オリンピック、パラリンピック関連需要もあり放送関連機器が堅調。
インド・中東	インド好調。まだ規模は小さいがポテンシャルは非常に大。
中国	内需活性化策の範囲で一定の需要があり低調ながらも順調。
日本	電波関連機器で特需。ビデオ関連は低調。

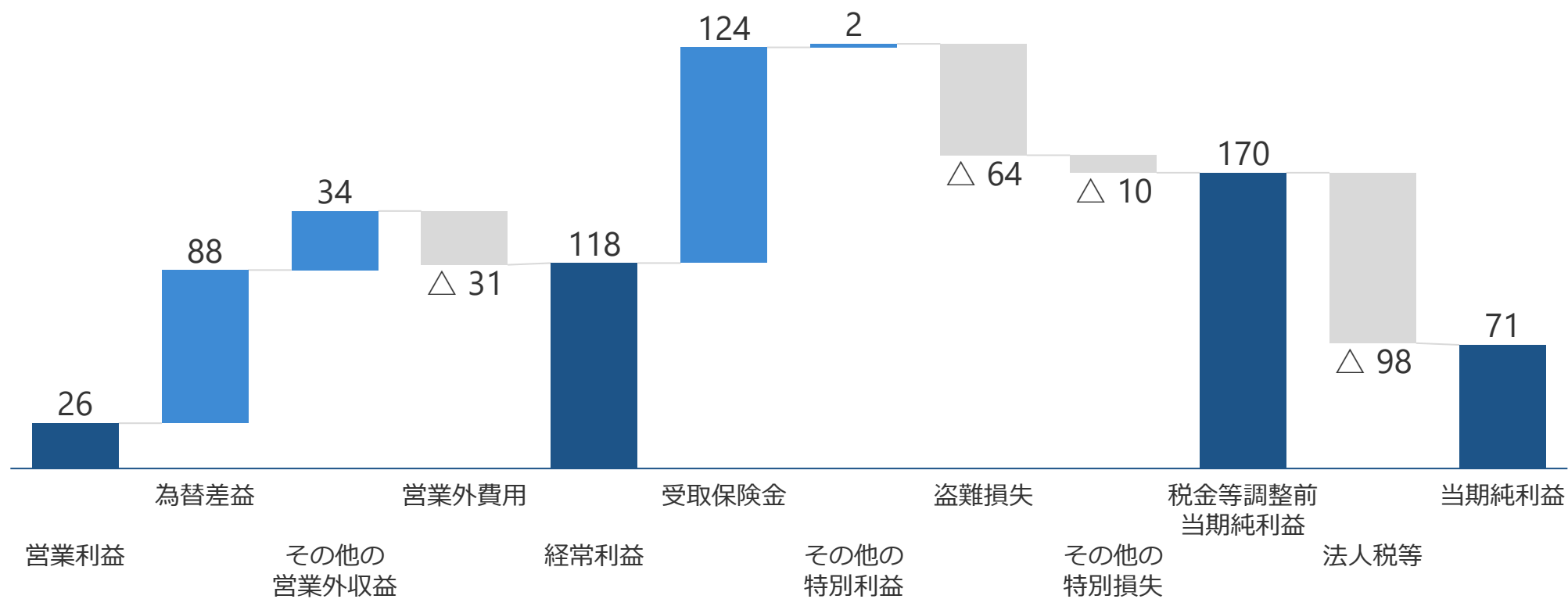
■財務：自己資本比率 **74.3%**と盤石の財務基盤維持（前期末比 +3.6pt）

2026年3月期 決算概要

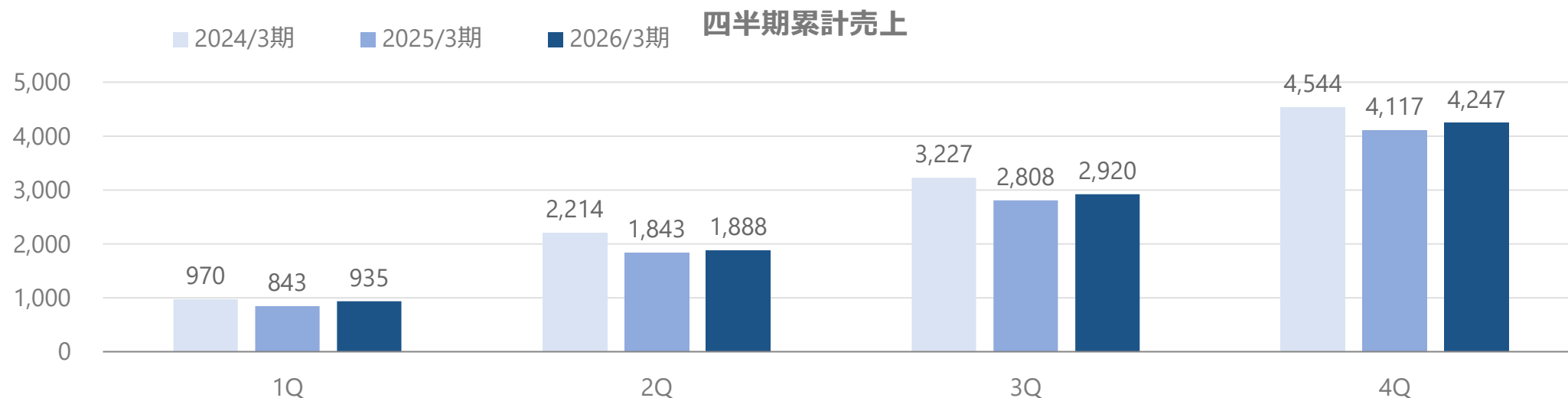
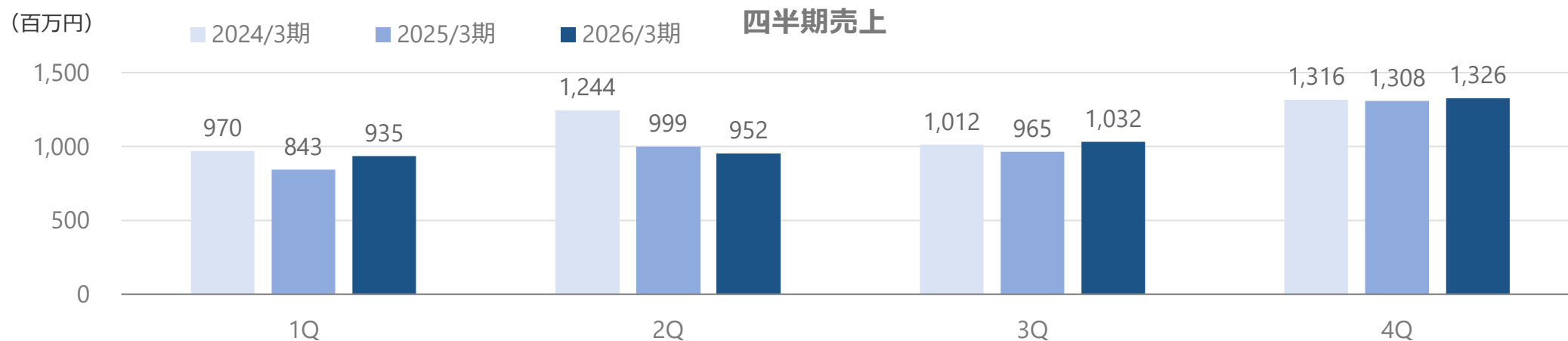
市場環境の不透明感に伴う設備投資抑制の影響を受けたが、電波関連機器の大型案件の獲得もあり、わずかながら増収。為替差益88百万円（営業外収益）、海外輸送中における盗難事案に関して、盗難損失（特別損失）64百万円、受取保険金（特別利益）124百万円を計上。

(単位：百万円)	2025年3月期 実績	構成 %	2026年3月期 実績	構成 %	前年同期比 %
売上高	4,117	100%	4,247	100%	+3.2%
売上総利益	2,574	62.5%	2,696	63.5%	+4.7%
販売費及び一般管理費	2,754	66.9%	2,669	62.8%	△3.1%
営業利益	△179	—	26	0.7%	—
経常利益	△223	—	118	2.8%	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△185	—	71	1.7%	—
EBITDA	△112	—	104	—	—

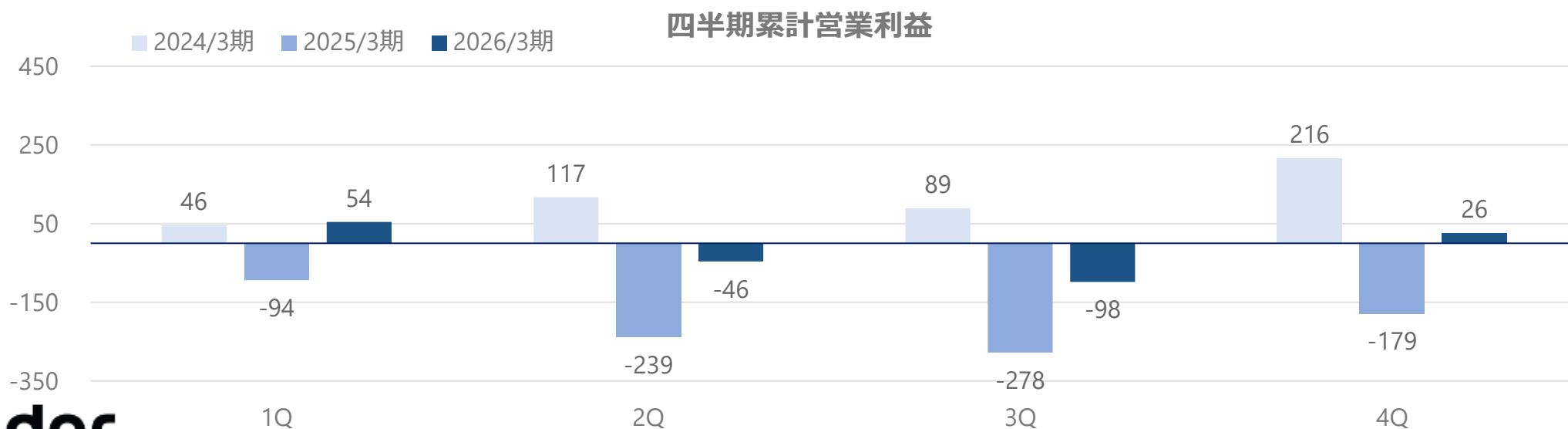
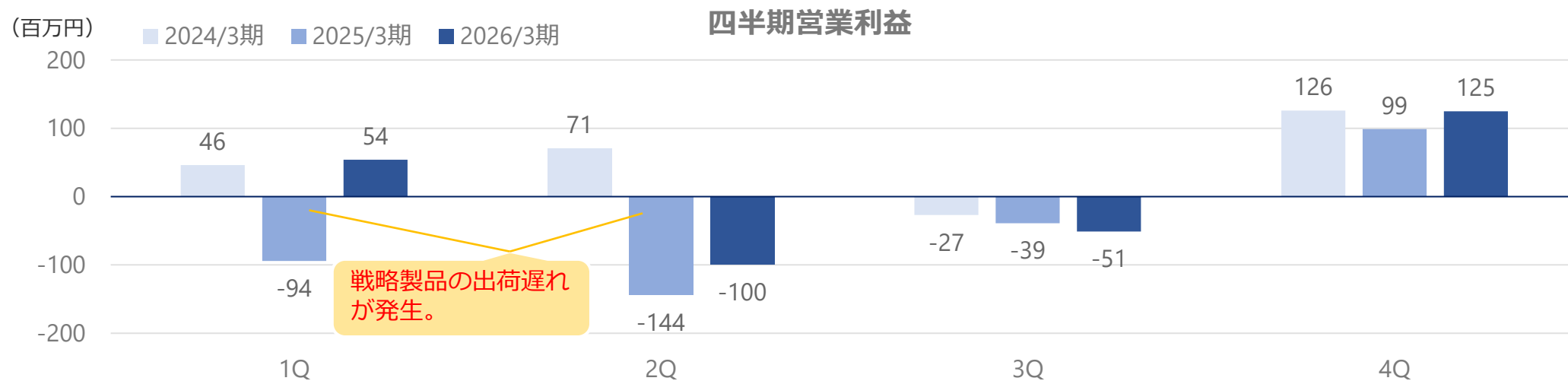
営業外損益・特別損益について



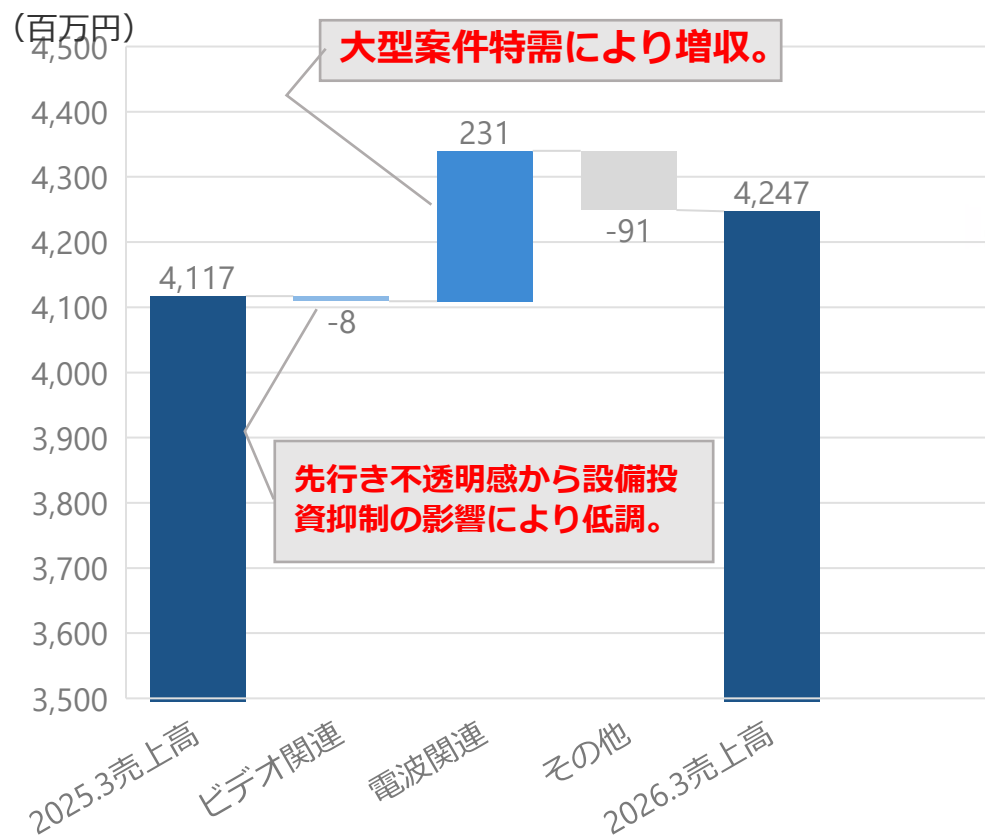
四半期業績推移（売上高）



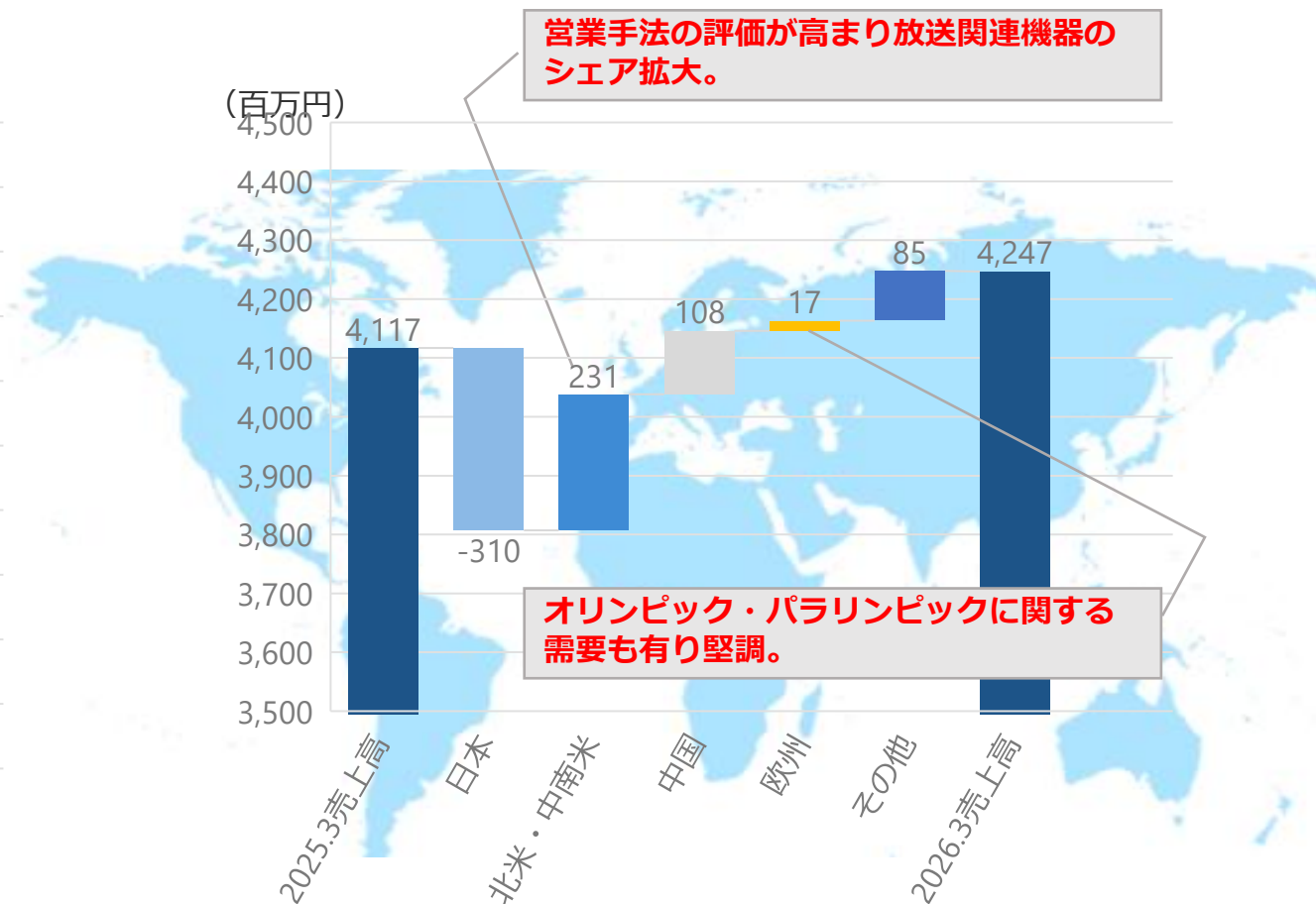
四半期業績推移（営業利益）



■ 商品別売上高

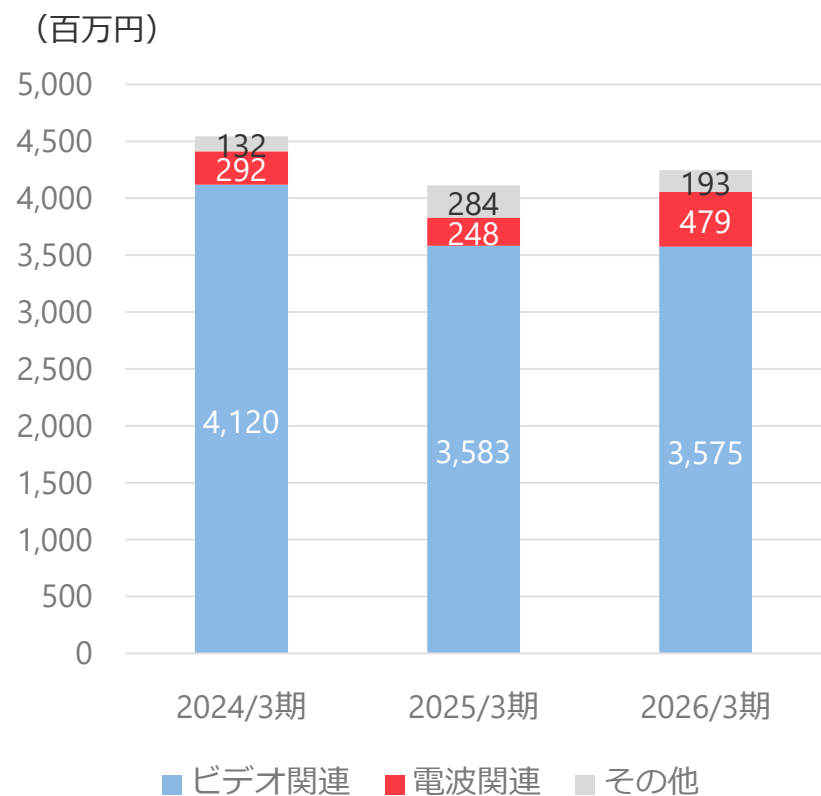


■ 地域別売上高

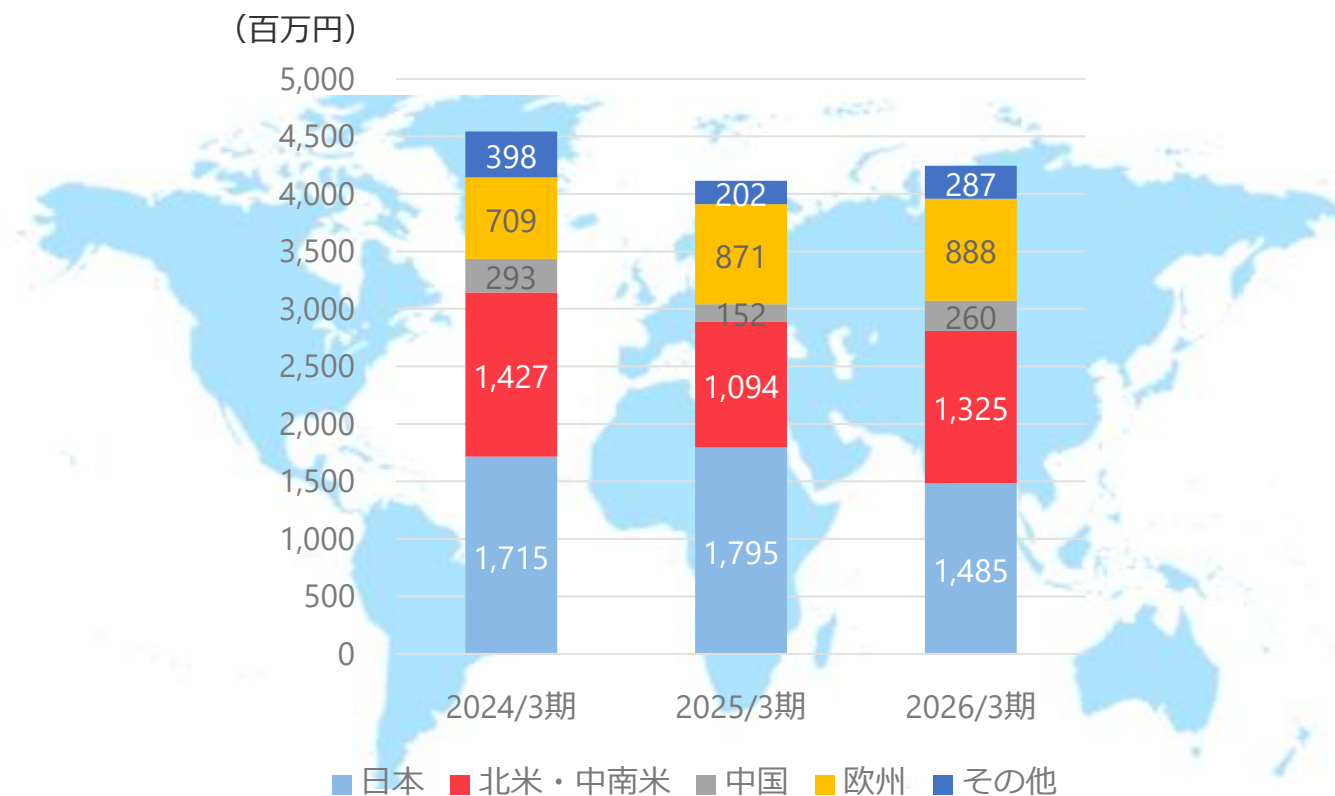


セグメント情報 売上高推移

■ 商品別売上高



■ 地域別売上高



単位:百万円	25年3月末	26年3月末
流動資産	3,571	3,677
現預金	1,229	1,310
受取手形、売掛金及び契約資産	930	774
商品及び製品	555	688
その他	856	903
固定資産	959	1,204
有形固定資産	445	471
無形固定資産	43	196
投資その他の資産	470	535
総資産	4,531	4,881
流動負債	860	683
買掛金	138	154
短期借入金・1年内返済予定の 長期借入金	228	3
その他	493	525
固定負債	467	572
退職金に係る負債	357	392
その他	109	179
純資産	3,203	3,626
株主資本合計	3,246	3,716
その他包括利益累計等	-43	-90
負債純資産合計	4,531	4,881

資本コストをより意識した経営を重要な経営課題と認識

既存事業（バリュービジネス）でのシェア向上と新規事業（グロースビジネス）の収益化という自社経営資源による成長及びM&A等を通じた外部資源を活用した成長によりROICを改善することを目指す一方、自己株取得等の施策を通じて資本コストを低減することにより、企業価値を向上し、資本コストを安定的に上回るROICの達成を目指す。具体的な目標値として、2031年3月期にROIC15%以上の達成としております。

【主な増減要因】（単位：百万円）

□ 受取手形及び売掛金	▲155
□ 現金及び預金	+81
□ のれん	+150
□ 商品及び製品	+133
□ 前渡金	+60
□ 繰延税金負債	+58
□ 短期借入金	▲221

自己資本比率74.3%（前期末比 +3.6pt）※

※ 第三者割当により自己株式84.7万株を処分

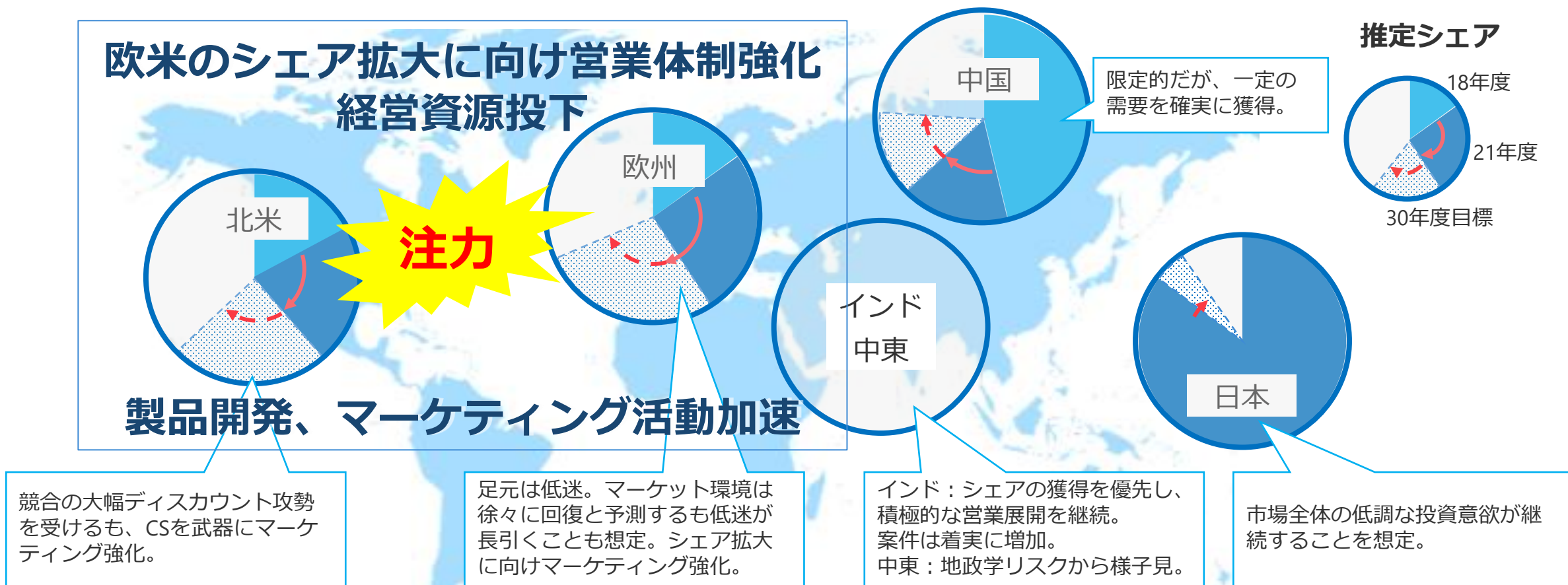
2027年3月期 通期計画



<https://www.leader.co.jp/>

外部環境認識と事業方針

日本流営業戦略が評価され北米トップシェア射程圏内。
欧州にも北米と同じ営業体制構築が完了。積極的な営業を展開。

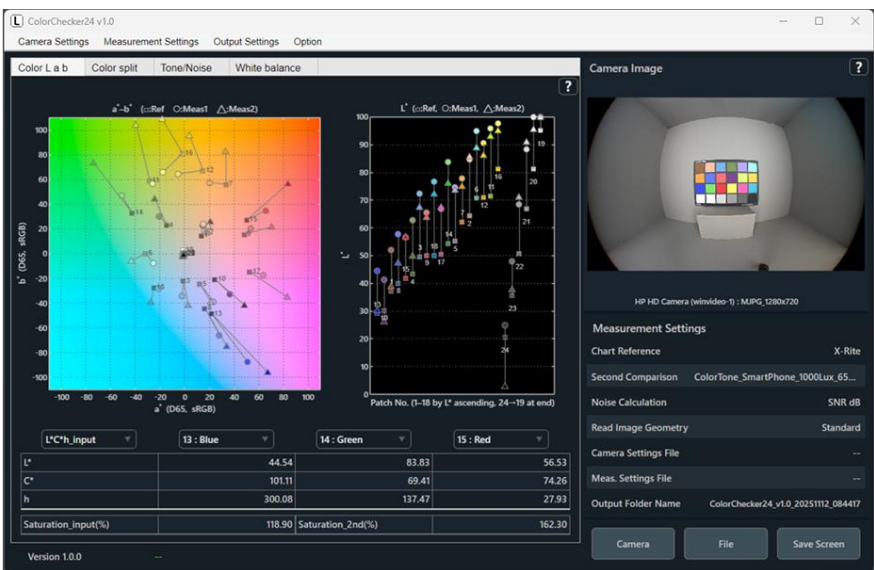


2027年3月期通期業績計画

- 世界経済の先行きは不透明な状況が継続するも、映像制作関連市場、放送関連市場は堅調を見込む。
- 既存事業（バリュービジネス）、新規事業（グロースビジネス）ともに積極的に投資し成長の土台を盤石なものとする期と位置付ける。
- IOキャピタル社のネットワーク、ノウハウを活用しVMA事業拡大のための活動を加速。

(単位：百万円)	2026年3月期 実績	構成 %	2027年3月期 計画	構成 %	2026年3月期 比較
売上高	4,247	100%	4,100	100%	▲3.5%
営業利益	26	0.7%	50	1.2%	—
経常利益	118	2.8%	100	2.4%	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	71	2.4%	70	1.7%	—
EBITDA	104		160		

➤ SFR-Fit suite 提供開始



Imatest社について

本社：米国・コロラド州。画像評価のためのソフトウェア、テストチャート、周辺機器のメーカー。15年以上にわたって画像解析で業界をリード。携帯電子機器、セキュリティ、自動車などに使用するカメラモジュールの研究、開発、生産で非常に多くの導入実績を有する。当社は、日本におけるImatest社製品の販売、サポートをおこなっている。

SFR-Fit suite

車載カメラモジュール・リアビューモニター・電子ミラー用の画質評価ソフトウェア。

車載カメラ用解像度測定アプリ「SFR-Fit」をベースとし、Imatestの画質測定エンジンを使用した、色・ノイズ・ダイナミックレンジなどのオプションアプリを追加することにより、車載カメラシステム評価に必要な全てのアプリケーションをオールインワン化。



SFR-Fit suiteでは全領域のレンズの解像度測定が可能に。

【新製品：4月13日 機能追加したバージョン1.3.0をリリース】

Leader

NDI® チェッカー

Pro-AV市場に向けたソフトウェア製品

➤ Windows PCで動作するソフトウェア製品

NDI®チェッカー

NDI信号のモニタリングアプリケーション

NDI

NDI®をより簡単・安心してご利用いただくための製品

NDIネットワーク診断を行う「Connectivity Check」の提供を新たに開始

→従来のNDI信号の品質監視に加え、ネットワークレイヤーまで含めたトラブルシューティングを支援

NETGEAR ProAVスイッチ（M4250、M4300、M4350、M4500）とのAPI連携により、対応環境ではスイッチ設定や接続状況を含む、より詳細な確認が可能となる



2025年10月

「The ProAV Best in Market 2025 Awards」

受賞

本製品の優位性について

- リアルタイムでのNDI測定
- 特別なハードウェアを必要としない導入・測定の手軽さ
- Pro-AV市場に合わせた価格帯

※製品サイト：<https://ndi-checker.leader.co.jp/>

Leader

REALMIXA (リアルミクサ)

➤ 実写とCGをシームレスに統合する“実写・CG合成映像の制作ツール”



https://www.youtube.com/watch?v=ILCLp_s3Kvc

➤ 想定活用シーン

「VTuber」や「背景・製品がCGの映像」に
「実写人物」を重ねる映像制作

- ・実写・CG合成映像の照明など表現力に更にこだわりたい
- ・クリエイティブな映像仕上げにもっと人手をかけたい
- ・クロマキーなど定型処理を標準化・効率化したい

REALMIXA (リアルミクサ) の特長について

- 実写とCG合成の照明や衣装の制約を減らし、よりクリエイティブな映像表現を可能に！
- 実写とCGを自然に馴染ませ、クリエイターが仕上げに集中できる環境を実現！
- クロマキー処理やカラーグレーディングの処理を自動化し、制作工数を標準化・効率化！

【導入事例ご紹介】

Leader PRG (Production Resource Group) 様

ライブ・エンターテインメント業界のあらゆる分野でクリエイティビティを支える、プロダクション・テクノロジーの世界的リーダー企業であるPRG社において弊社グループ製品が使用されています。



https://www.leader.co.jp/uploads/2026/02/topics_prg.pdf

DONGHWA AV 様 新デモスタジオ開設

当社のパートナー企業DONGHWA AV 社が韓国にデモスタジオ「DHAV MEDIA」を新しく開設。急速に普及が進むバーチャルプロダクションや IP ワークフローの検証・トレーニング拠点。安定した運用と品質管理を支えるツールとして、リーダー電子グループの計測器が採用。



https://www.leader.co.jp/uploads/2026/03/topics_donghwa.pdf

企業成長投資と株主還元のバランス重視。安定的な配当を継続。

